



2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年11月6日
日本写真印刷株式会社
代表取締役社長 兼 最高経営責任者 鈴木順也

NISSHA

Nissha Confidential Proprietary



本日のポイント(1)

2014年3月期 第2四半期までの実績

- 四半期毎に状況が変化
- Q1(4~6月)はデバイスの需要低迷が売上高・利益に影響
- Q2(7~9月)は黒字を確保
 - 産業資材: ボリューム効果と固定費最適化(デバイスへの人員シフト)で黒字転換
 - デバイス: ボリューム効果で黒字転換
 - 加賀工場の増産立ち上げ完了
 - フォトリソ工法は、生産数量が大幅増加も、当初想定の需要は下回る
 - ゲーム機向けは堅調
- 上期(4~9月)としては、売上高は計画に届かず
デバイスのボリューム効果で営業損失は縮小

NISSHA

Nissha Confidential Proprietary



本日のポイント(2)

2014年3月期 第3四半期以降の見通し

- Q3(10~12月): デバイスは最大の需要期となるが期初計画よりも弱い
- Q4(1~3月): デバイスの需要が大幅減少
- 以上の状況と、上期の売上高下振れを反映して、通期業績予想を下方修正
 - 産業資材: ノートPC向け需要の減速
 - デバイス: フォトリソ工法の需要が変動、ゲーム機向けも減速
 - 固定費の最適化と変動費・経費の削減を徹底し、通期の黒字化を実現

2015年3月期に向けて

- 産業資材: リーンな生産体制を構築、自動車向け需要の拡大
- デバイス: フォトリソ工法のお客さま・対象製品の拡大
素材×工法の組み合わせ多様化で新たな市場価値を提供
- M&Aを活用して事業・製品ポートフォリオの組み換えを促進
 - 需要変動リスクの低減を急ぐ

Nissha Confidential Proprietary

2



2014/3期H1 売上高は未達、赤字幅は縮小

2014年3月期 第2四半期累計(4月~9月)経営成績

(百万円)

		2013/3期H1	2014/3期H1	2014/3期H1	前年同期	計画比
		実績	計画	実績	比	
売上高		36,486	53,000	49,282	+35.1%	▲7.0%
営業利益		▲5,080	▲3,500	▲2,813	-	-
営業利益率		▲13.9%	▲6.6%	▲5.7%	+8.2pt	+0.9pt
経常利益		▲5,870	▲3,300	▲1,126	-	-
四半期純利益		▲6,320	▲4,000	▲1,587	-	-
事業別 売上高	産業資材	14,903	-	13,363	▲10.3%	-
	デバイス	12,968	-	27,475	+111.9%	-
	情報コミュニケーション	8,614	-	8,442	▲2.0%	-
	その他	-	-	-	-	-
事業別 営業利益	産業資材	330	-	▲278	-	-
	デバイス	▲2,777	-	▲215	-	-
	情報コミュニケーション	29	-	▲359	-	-
	その他	-	-	-	-	-
	調整額	▲2,662	-	▲1,960	-	-

※2014/3期より、従来の全社費用の一部を新基準で事業に配賦しています。

Nissha Confidential Proprietary

3



2014/3期Q2 黒字化を達成

2014年3月期 第2四半期(7月~9月)経営成績

(百万円)

		2013/3期Q2	2014/3期Q1	2014/3期Q2	前年同期 (2013/3期Q2)	前四半期 (2014/3期Q1)
		実績	実績	実績	比	比
売上高		20,150	17,504	31,778	+57.7%	+81.5%
営業利益		▲2,157	▲3,650	837	黒字化	黒字化
営業利益率		▲10.7%	▲20.9%	2.6%	+13.3pt	+23.5pt
経常利益		▲2,566	▲2,367	1,241	黒字化	黒字化
四半期純利益		▲2,836	▲2,704	1,117	黒字化	黒字化
事業別 売上高	産業資材	7,134	5,998	7,365	+3.2%	+22.8%
	デバイス	8,667	7,331	20,144	+132.4%	+174.8%
	情報コミュニケーション その他	4,350	4,174	4,268	▲1.9%	+2.3%
事業別 営業利益	産業資材	345	▲467	189	▲45.2%	黒字化
	デバイス	▲1,139	▲2,076	1,861	黒字化	黒字化
	情報コミュニケーション その他	20 ※	▲118 ※	▲241 ※	-	-
	調整額	▲1,384	▲988	▲972	-	-

※2014/3期より、従来の全社費用の一部を新基準で事業に配賦しています。

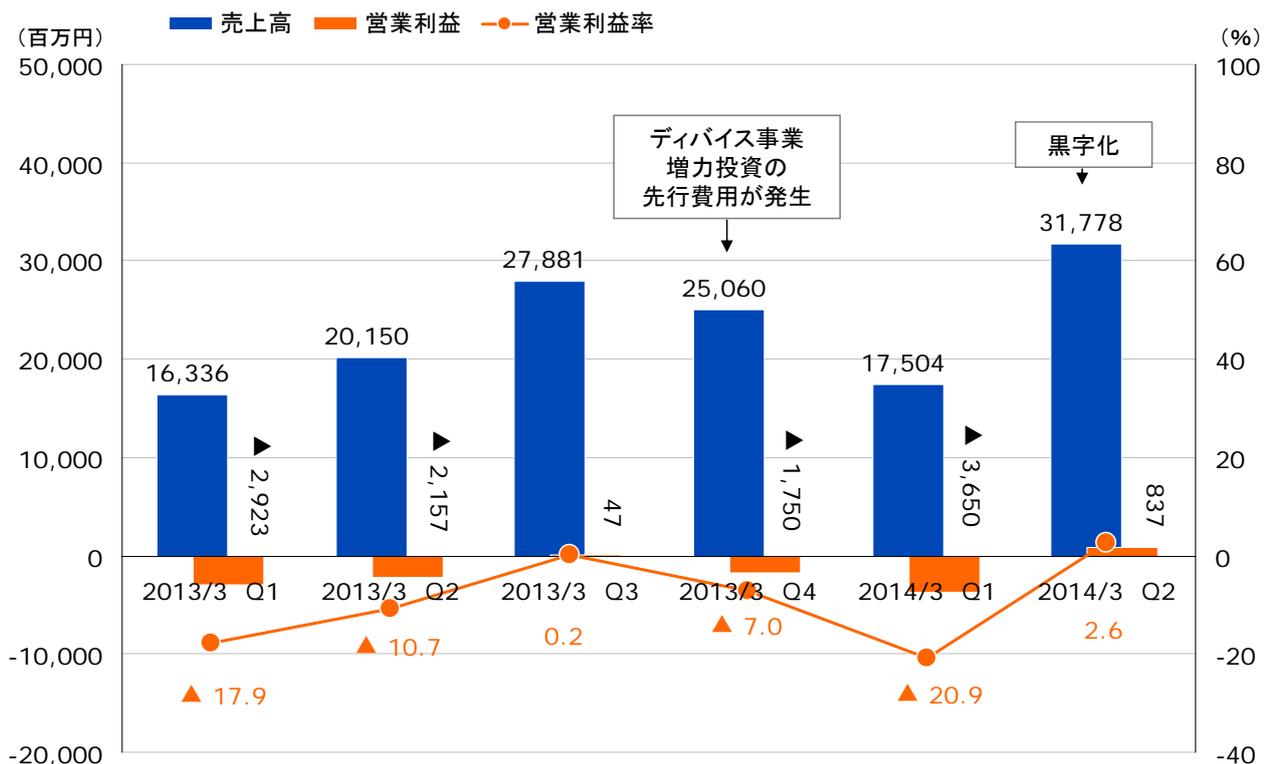
NISSHA

Nissha Confidential Proprietary

4



業績の推移(四半期)



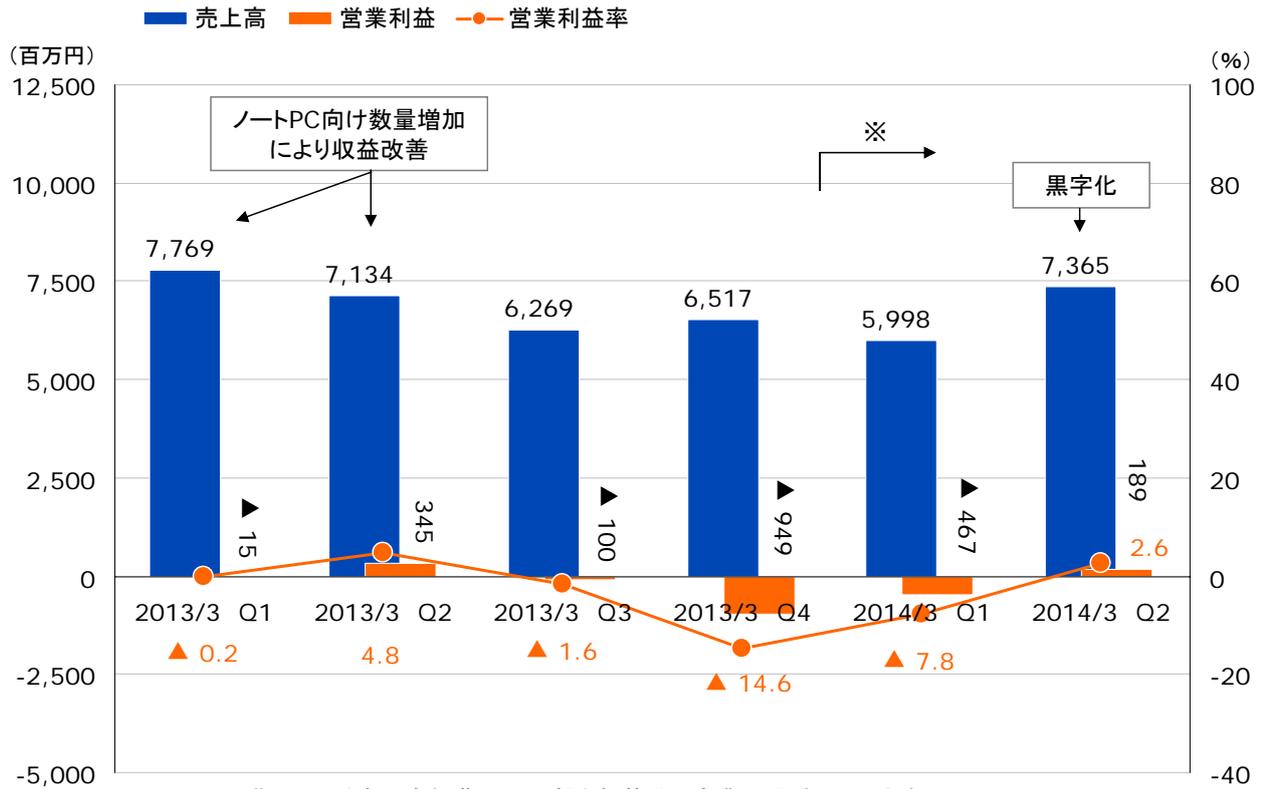
NISSHA

Nissha Confidential Proprietary

5



産業資材 業績の推移(四半期)



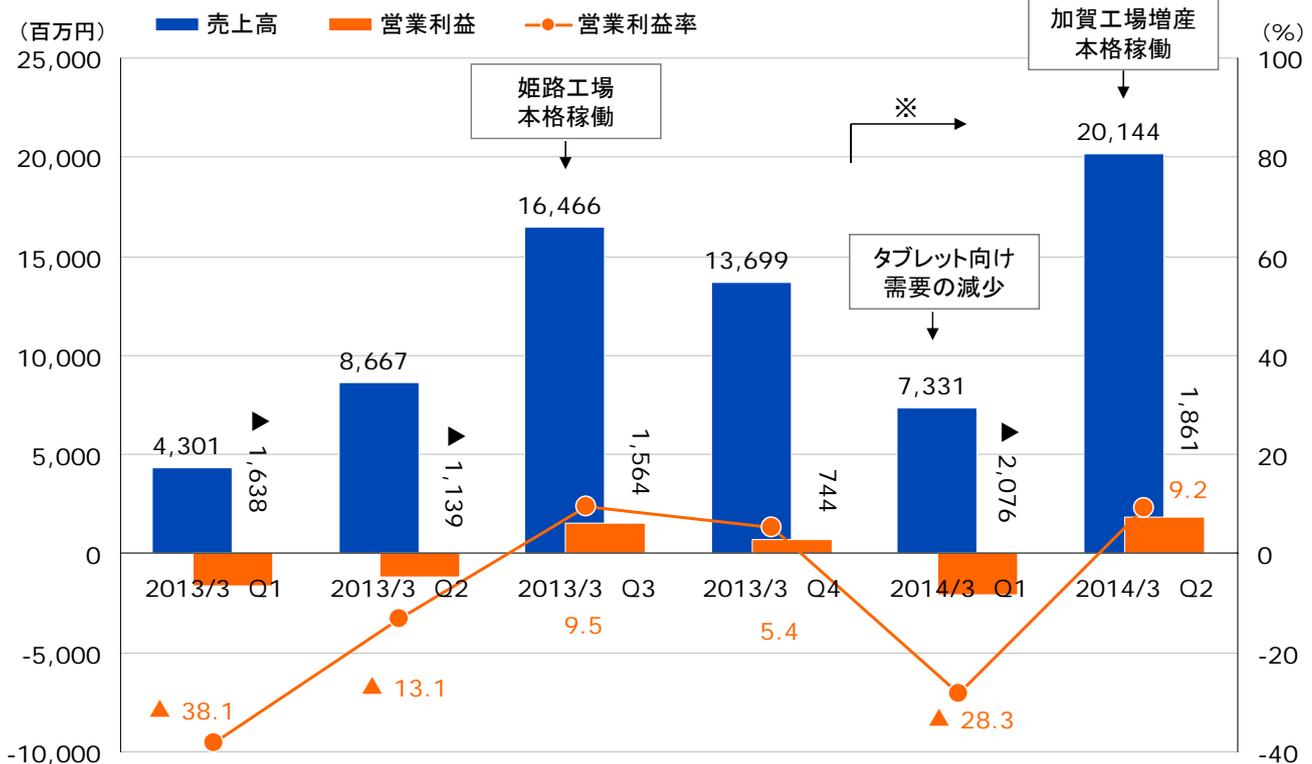
NISSHA

Nissha Confidential Proprietary

6



デバイス 業績の推移(四半期)



NISSHA

Nissha Confidential Proprietary

7

Trend Meets Technology

情報コミュニケーションその他 業績の推移(四半期)

(百万円) 売上高 営業利益 営業利益率 (%)

四半期	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	営業利益率 (%)
2013/3 Q1	4,264	9	0.2
2013/3 Q2	4,350	20	0.5
2013/3 Q3	5,146	183	3.6
2013/3 Q4	4,844	125	2.6
2014/3 Q1	4,174	118	2.8
2014/3 Q2	4,268	241	5.6

※2014/3期より、従来の全社費用の一部を新基準で事業に配賦しています。

NISSHA

Nissha Confidential Proprietary

8

Trend Meets Technology

貸借対照表の概要

総資産、負債、純資産の前期末比増減

(百万円)

項目	2013/3	2013/9
総資産	114,964	118,355
純資産	44,491	44,743
負債	70,472	73,612

● 総資産の主な増減

- 現預金の減少 ▲8,345
- 売上債権の増加 +3,349
- 設備投資による有形固定資産の増加 +5,328

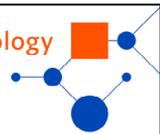
● 負債の主な増減

- 短期借入金の減少 ▲1,003
- 仕入債務の減少 ▲2,940
- 設備未払金の減少 ▲2,523
- 設備関係支払手形の増加 +8,277

NISSHA

Nissha Confidential Proprietary

9



キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)

	2013/3期 H1実績	2014/3期 H1実績	2014/3期H1 実績の概要	
営業活動による キャッシュ・フロー	6,273	▲3,443	●減価償却費	5,219
			●仕入債務の減少により	▲3,185
			●売上債権の増加により	▲3,093
投資活動による キャッシュ・フロー	▲1,813	▲5,453	●有形・無形固定資産の取得により	▲5,117
(フリーキャッシュ・フロー)	4,460	▲8,896		
財務活動による キャッシュ・フロー	▲313	▲1,312	●短期借入金の減少により	▲1,000
現金及び現金同等物の 四半期末残高	23,416	15,318		

- Q1の売上高減少により、一時的にキャッシュポジションが悪化
- Q2～Q3の売上高増加にともない、下期のキャッシュポジションは正常化へ

10

Nissha Confidential Proprietary



2014/3期 需要減少を反映して下方修正

2014年3月期業績予想

(百万円)

	2013/3期 実績	2014/3期 期初計画 (5/10公表)	2014/3期		2014/3期 今回予想 (11/6修正)	前期比	期初 計画比
			2014/3期 H1実績	2014/3期 H2予想			
売上高	89,427	130,000	49,282	63,718	113,000	+26.4%	▲13.1%
営業利益	▲6,783	4,000	▲2,813	3,813	1,000	-	▲75.0%
営業利益率	▲7.6%	3.1%	▲5.7%	6.0%	0.9%	+8.5pt	▲2.2pt
経常利益	▲4,643	4,400	▲1,126	3,626	2,500	-	▲43.2%
当期純利益	▲5,438	3,000	▲1,587	3,387	1,800	-	▲40.0%

事業別売上高

産業資材	27,689	28,500	13,363	12,637	26,000	▲6.1%	▲8.8%
デバイス	43,133	82,500	27,475	40,525	68,000	+57.7%	▲17.6%
情報コミュニケーション その他	18,604	19,000	8,442	10,558	19,000	+2.1%	±0.0%

11

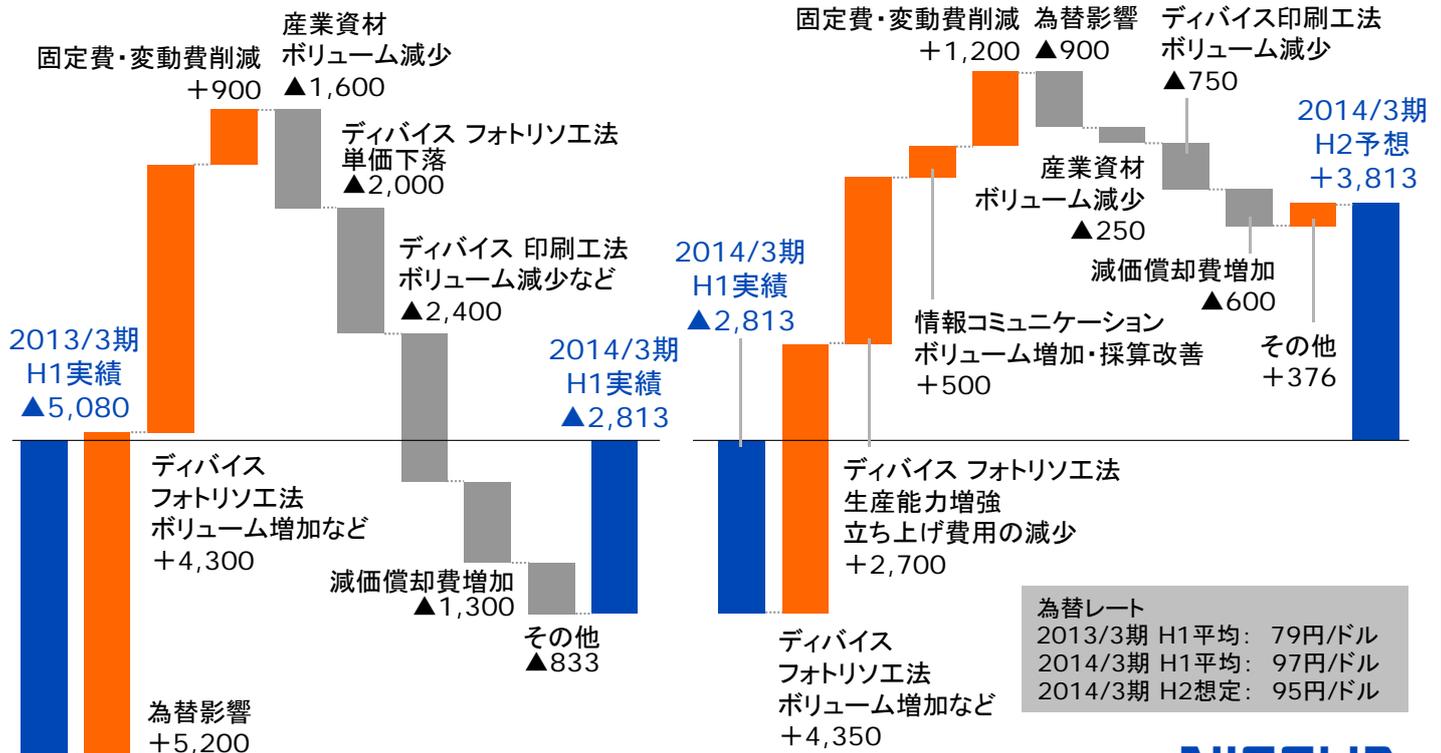
Nissha Confidential Proprietary

営業利益の増減要因(上期実績、下期見通し)

(百万円)

2013年3月期上期 → 2014年3月期上期

2014年3月期上期 → 2014年3月期下期(予想)



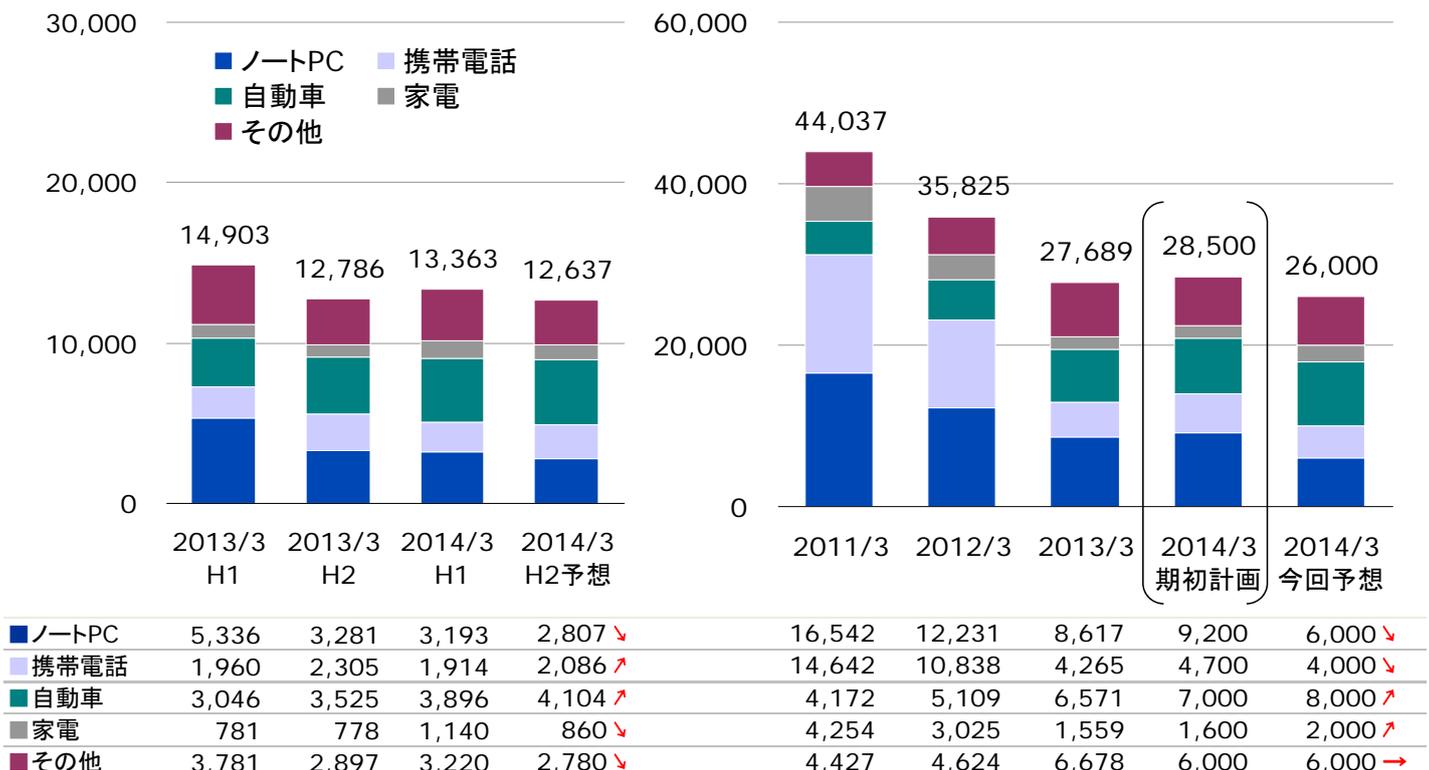
NISSEHA

産業資材 ノートPCの需要が大幅減速

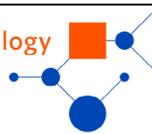


産業資材 用途別売上高の推移

(百万円)



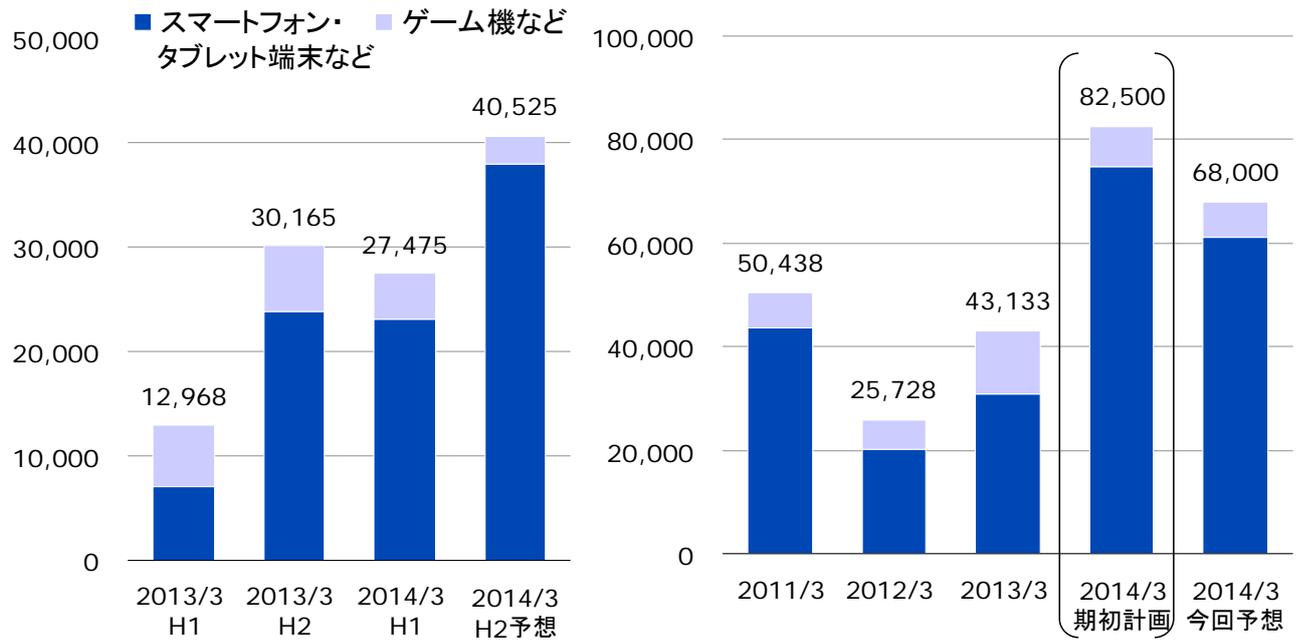
NISSEHA



デバイス タブレット端末向けがQ4で減少

デバイス 用途別売上高の推移

(百万円)



■スマートフォン・タブレット端末など	7,056	23,831	23,111	37,889	↑	43,542	20,200	30,887	74,700	61,000	↓
■ゲーム機など	5,912	6,333	4,365	2,635	↓	6,897	5,530	12,245	7,800	7,000	↓

NISSHA

14

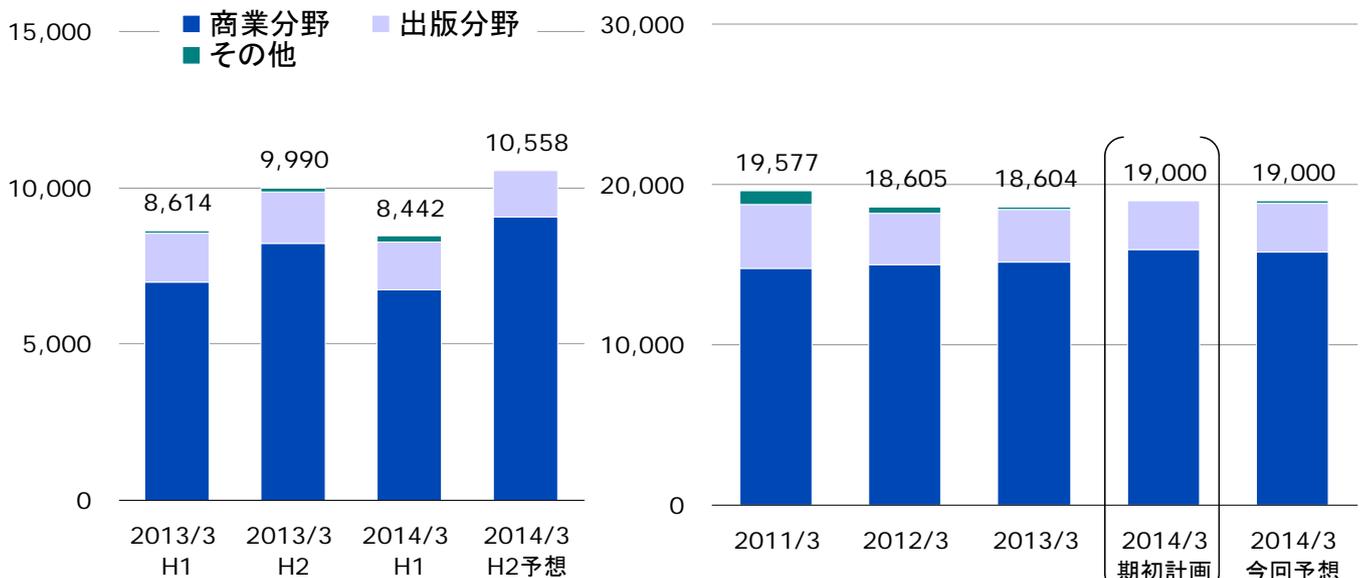
Nissha Confidential Proprietary



情報コミュニケーション 商業分野は下期の増加見込む

情報コミュニケーションその他 分野別売上高の推移

(百万円)



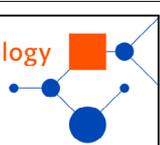
■商業分野	6,980	8,213	6,735	9,065	↑	14,763	14,999	15,193	15,900	15,800	↓
■出版分野	1,569	1,654	1,530	1,470	↓	4,022	3,196	3,223	3,060	3,000	↓
■その他	66	124	179	21	↓	792	411	190	40	200	↑

※「その他」には情報コミュニケーション事業に含まれない不動産事業、人材派遣事業などの売上高を含みます。

NISSHA

15

Nissha Confidential Proprietary



2015年3月期へ向けて(1)

- 産業資材
 - 自動車向けがノートPCに代わる主力セグメントに
 - IMD一体型タッチモジュールの立ち上げ
 - グローバルベースで地域密着のバリューチェーンを一層拡大
 - 新製品・新技術の販売促進に引き続き注力
 - ガラス転写(2014/3期H1より有カスマートフォンで採用始まる)
 - 3D転写(ノートPC、スマートフォンで採用目指す)
 - 開発および生産機能をグローバルに展開、移植
- デバイス
 - フトリソ工法の2工場体制が年間を通じて寄与
 - 一本足からの脱却のため、お客さま・対象製品の拡大
 - 主力材料と加工方法の多様化により、対象市場を拡大
 - 材料: 銀ナノワイヤーを用いたタッチセンサー(台湾/TPKとの共同開発)
 - 加工方法: 印刷工法の高度化(韓国/S-MACとの合弁)

NISSHA



銀ナノワイヤーによるセンサーフィルムの開発と量産化を加速

- 主力材料の多様化により、受注機会を拡大
- 銀ナノワイヤーセンサー量産の先駆者としての当社のリードをさらに延長
- TPK Filmに資本参加(当社 25%、TPK 65%、Cambrios 10%)
 - Step 1: 現在~共同開発期間(新たな加工方法を確立)
 - Step 2: 2015年3月期Q2~ 開発完了の判断により量産へ移行
- 銀ナノワイヤーの特性
 - 三次元形状に対してフレキシブル、低抵抗値、低コスト
 - ミドル、ローエンドの市場を開拓

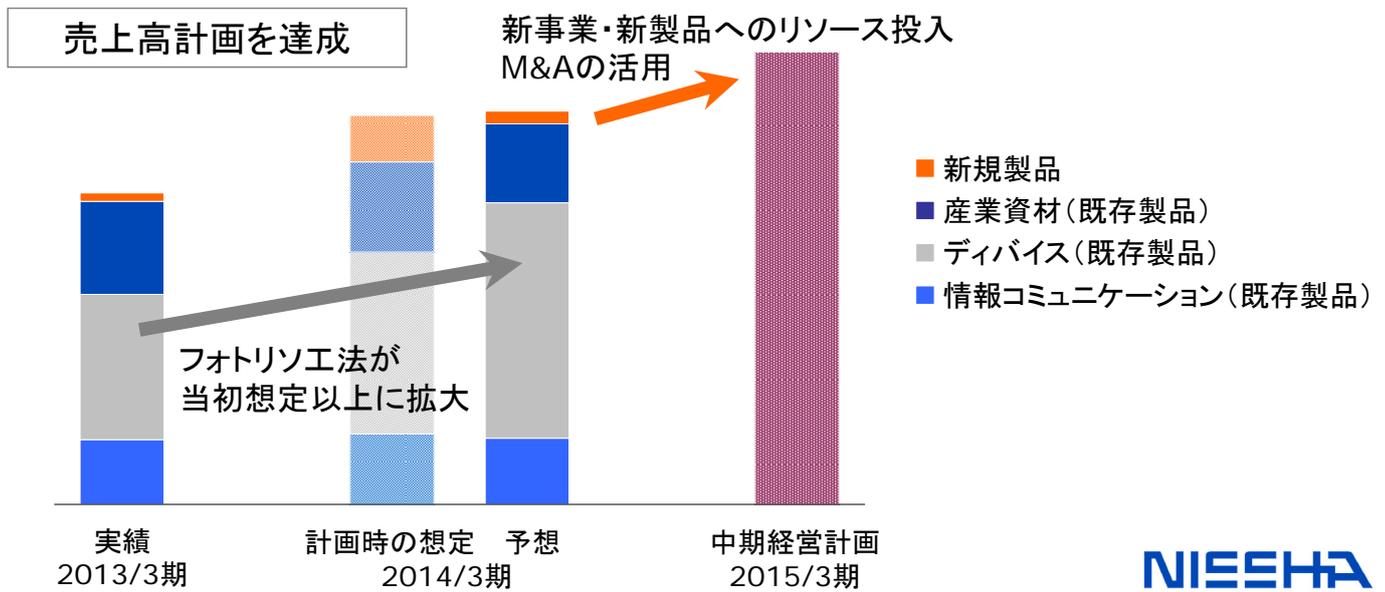
NISSHA



2015年3月期へ向けて(2)

●第4次中期経営計画の完遂に注力

- 当初の売上高計画の達成を目指す
- 事業・製品ポートフォリオの是正：
M&Aの活用・社外との連携による価値創造システムの構築
- 財務基盤を安定させ、次の成長に繋ぐ



NISSHA

18

Nissha Confidential Proprietary



ご清聴ありがとうございました。

NISSHA

【お問い合わせ先】

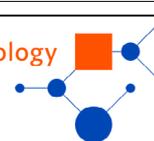
日本写真印刷株式会社
コーポレートコミュニケーション室IRグループ
室長 谷口哲也

T 075 823 5144 (IRグループ直通)

NISSHA

19

Nissha Confidential Proprietary



免責事項

本プレゼンテーション資料には、日本写真印刷株式会社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。そのため、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などのさまざまな要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

- 本資料の業績数値は、特に注記がない限り、すべて連結ベースとなっております。